

平成21年度 全国学力・学習状況調査  
宮崎県の調査結果  
【1 結果の概要】

学校政策課

◆ 調査の目的

- (1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

◆ 調査の概要

- 1 調査実施日 平成21年4月21日(火)
- 2 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年
- 3 調査対象 県内の全公立小・中学校  
小学校：258校(11,598人) 中学校：143校(11,649人)
- ※ 国立・私立学校も参加しているが、示しているのは、県内の公立小・中学校の結果のみである。

◆ 宮崎県の公立小・中学校の学力調査結果の概要

※ 太字が平成21年度の宮崎県の平均正答率、( )の中は、全国の平均正答率

学年	年度	国語A (%)	国語B (%)	算数A (%)	算数B (%)
小学校 第6学年	H21	<b>71.8 (69.9)</b>	<b>49.2 (50.5)</b>	<b>79.8 (78.7)</b>	<b>51.1 (54.8)</b>
	H20	66.9 (65.4)	48.9 (50.5)	74.0 (72.2)	49.1 (51.6)
	H19	82.2 (81.7)	60.0 (62.0)	83.7 (82.1)	63.6 (63.6)
中学校 第3学年	H21	<b>78.0 (77.0)</b>	<b>77.2 (74.5)</b>	<b>64.8 (62.7)</b>	<b>57.2 (56.9)</b>
	H20	74.8 (73.6)	61.5 (60.8)	64.8 (63.1)	50.5 (49.2)
	H19	82.7 (81.6)	74.0 (72.0)	75.0 (71.9)	62.9 (60.6)

- A問題：主として「知識」に関する問題  
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容  
実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
- B問題：主として「活用」に関する問題  
知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容  
様々な課題解決のための構想を立てて実践し評価・改善する力などに関わる内容

本県の児童生徒の学力の状況は、小学校の正答率が、国語、算数ともに、知識に関する問題は全国平均を上回っているものの、活用に関するB問題については、全国平均を下回っている。中学校では、全ての教科で全国平均を上回っている。

学力の全体的な状況については、若干の変動があるものの、ほぼ昨年度までと同様であるが、小学校については、活用に関するB問題について、今後更に対策を講じながら改善を図っていく必要がある。

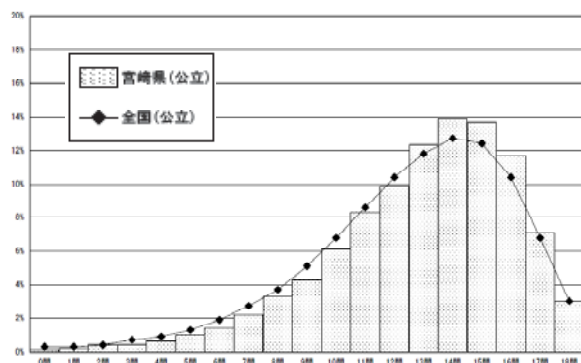
調査は学力の一部を測るものであるが、調査結果の詳細な検討・分析を今後の施策の検証や授業改善に生かしていくことが大切である。

平成21年度 全国学力・学習状況調査  
宮崎県の調査結果  
【2 小学校国語の結果概要】

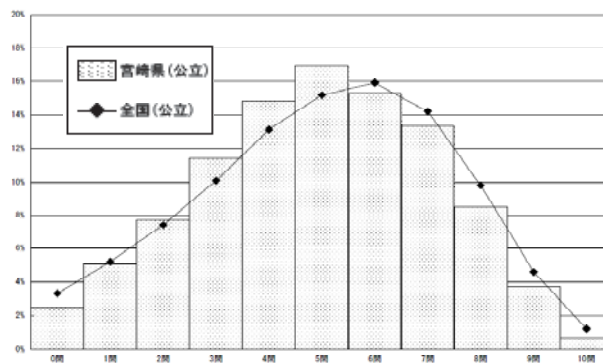
学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

小学校国語A（18問）



小学校国語B（10問）



※ 棒グラフが宮崎県の平均分布状況、折れ線グラフが全国の分布状況 横軸：正答数、縦軸：児童の割合

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの公立小学校の平均正答率

※ 太字が宮崎県の平均正答率、（ ）の中は、全国の平均正答率、下段は全国平均との差

領域	国語A	国語B
話すこと	<b>69.3</b> (68.0)	<b>60.4</b> (61.3)
聞くこと	+1.3	-0.9
書くこと	<b>85.1</b> (85.4)	<b>12.2</b> (14.5)
	-0.3	-2.3
読むこと	<b>69.1</b> (68.7)	<b>55.4</b> (56.5)
	+0.4	-1.1
言語事項	<b>67.0</b> (64.2)	<b>57.5</b> (59.7)
	+2.8	-2.2

問題形式	国語A	国語B
選択式	<b>79.9</b> (80.1)	<b>65.0</b> (65.8)
	-0.2	-0.8
短答式	<b>68.7</b> (65.9)	<b>47.5</b> (48.7)
	+2.8	-1.2
記述式	<b>69.3</b> (68.0)	<b>44.5</b> (46.0)
	+1.3	-1.5

◆ 小学校国語の結果概要（全国平均との比較）

【話すこと・聞くこと】

- (B) 目的や意図が伝わるように話の組立てを工夫しながら説明することに課題がある。

【書くこと】

- (A) はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書くことに課題がある。
- (B) 目的や意図に応じて、必要な事柄を整理し、事象や意見などを関係付けて書くことに課題がある。

【読むこと】

- (B) 筆者の表現の工夫に着目して読んだり、目的や意図に応じて、自分の考えをまとめたりすることに課題がある。

【言語事項】

- (A) 漢字を正しく書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすることは全国平均よりよくできている。
- (A) 文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。

- (A) (B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より少ない。

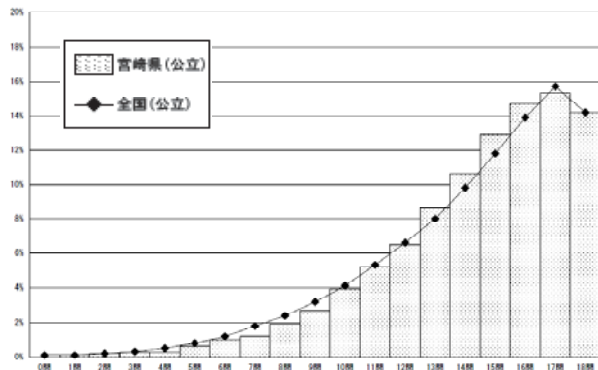
- (B) 記述式の問題の正答率が、全国平均に対してやや低い傾向が見られる。

※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

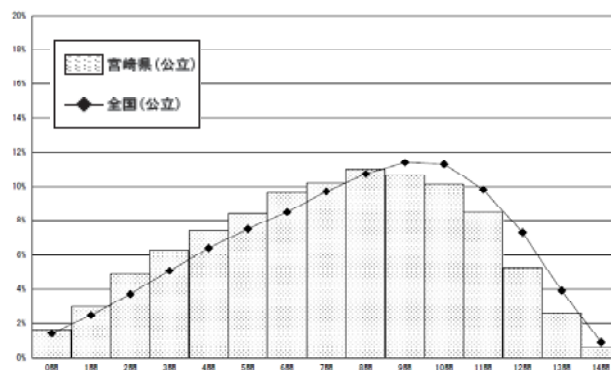
平成21年度 全国学力・学習状況調査  
宮崎県の調査結果  
【3 小学校算数の結果概要】

学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）  
小学校算数A（18問）



小学校算数B（14問）



※ 棒グラフが宮崎県の平均分布状況、折れ線グラフが全国の分布状況 横軸：正答数、縦軸：児童の割合

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの公立小学校の平均正答率

※ 太字が宮崎県の平均正答率、( )の中は、全国の平均正答率、下段は全国平均との差

領域	算数A	算数B
数と計算	<b>84.3</b> (82.8) +1.5	<b>52.6</b> (55.8) -3.2
量と測定	<b>81.9</b> (78.5) +3.4	<b>55.3</b> (59.9) -4.6
図形	<b>82.4</b> (81.3) +1.1	<b>53.2</b> (56.4) -3.2
数量関係	<b>61.8</b> (64.2) -2.4	<b>53.7</b> (56.8) -3.1

問題形式	算数A	算数B
選択式	<b>80.7</b> (76.7) +4.0	<b>66.0</b> (68.9) -2.9
短答式	<b>79.5</b> (79.5) 0.0	<b>59.7</b> (63.7) -4.0
記述式		<b>33.0</b> (36.8) -3.8

◆ 小学校算数の結果概要（全国平均との比較）

【数と計算】

- (A) 数を四捨五入して概数で表すことや整数の中から偶数を選ぶことについては、全国平均よりよくできている。
- (B) 情報を整理選択し、筋道を立てて考え、判断が正しい理由を数学的に表現することに課題がある。

【量と測定】

- (A) 方眼上の三角形の面積を求める式を書くことは、全国平均よりよくできている。
- (B) 与えられた条件に合う時刻を筋道をたてて考えることや、実験を基に筋道を立てて考え重さの範囲を数学的に表現することに課題がある。

【図形】

- (B) 事象を観察して図形を見だし、長さを求めるために必要な情報を選択することや、示された解決方法を理解し、別の解決方法を考えそれを数学的に表現することに課題がある。

【数量関係】

- (A) 百分率を求めることや、資料を2つの観点から分類・整理し、表すことに課題がある。
- (B) グラフの特徴を基に、数量の変化の様子をとらえることや、割合の大小を判断し、その理由を数学的に表現することに課題がある。

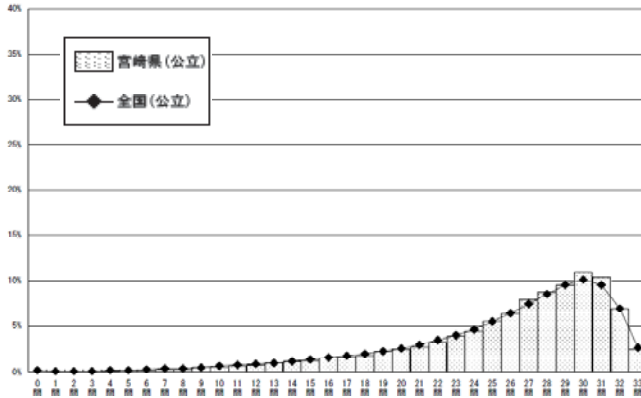
- (A) (B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より少ない。
- (B) 記述式の問題の正答率が、全国と比べ低い傾向が見られる。

※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

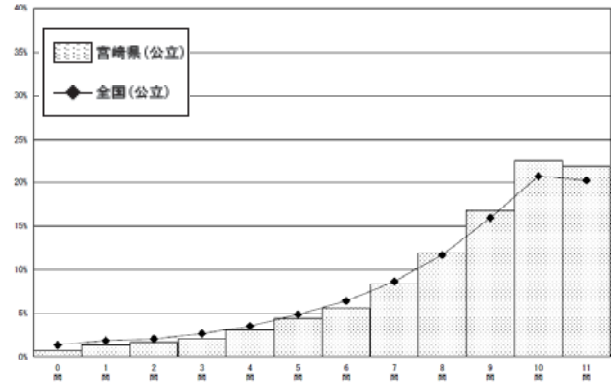
平成21年度 全国学力・学習状況調査  
**宮崎県の調査結果**  
 【4 中学校国語の結果概要】

学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）  
 中学校国語A（33問）



中学校国語B（11問）



※ 棒グラフが宮崎県の平均分布状況、折れ線グラフが全国の分布状況 横軸：正答数、縦軸：児童の割合

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの公立中学校の平均正答率

※ 太字が宮崎県の平均正答率、( )の中は、全国の平均正答率、下段は全国平均との差

領域	国語A	国語B
話すこと 聞くこと	<b>87.6</b> (86.8) +0.8	
書くこと	<b>66.0</b> (64.6) +1.4	<b>77.3</b> (72.5) +4.8
読むこと	<b>75.8</b> (75.7) +0.1	<b>77.2</b> (74.5) +2.7
言語事項	<b>77.8</b> (76.0) +1.8	

問題形式	国語A	国語B
選択式	<b>75.7</b> (76.0) -0.3	<b>70.4</b> (70.2) +0.2
短答式	<b>81.1</b> (78.4) +2.7	<b>83.9</b> (82.0) +1.9
記述式		<b>77.3</b> (72.5) +4.8

◆ 中学校国語の結果概要（全国平均との比較）

【話すこと・聞くこと】

- (A) 話の内容から必要な情報を的確に聞き取ったり、話の中に必要な情報が含まれているかを判断し、適切に質問したりすることについては、正答率が高い。

【書くこと】

- (B) 書かれている内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを説明したり、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てたりすることは全国平均よりよくできている。

【読むこと】

- (A) 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読んだり、古文と現代語訳とを対応させて内容をとらえることは全国平均よりよくできている。
- (A) 短歌の形式に従って意味のまとまりをつかんだり、語句の意味を理解したりすることに課題がある。

【言語事項】

- (A) 主語・主部に対応させて述語・述部を適切に書くことが全国平均よりよくできている。
- (A) 文脈に即して漢字を正しく書くことは全国平均よりよくできている。

- (A) (B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より少ない。
- (B) 記述式の問題の正答率が、全国平均に対して高い傾向が見られる。

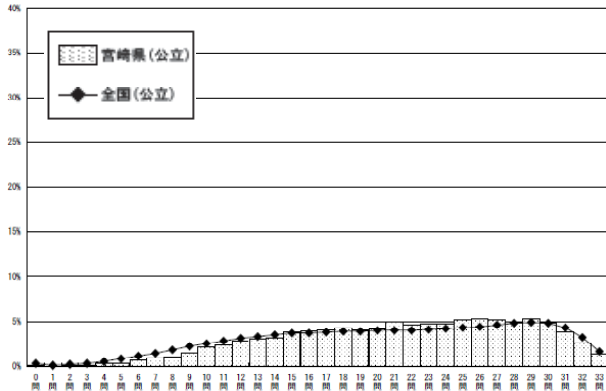
※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

平成21年度 全国学力・学習状況調査  
宮崎県の調査結果  
【5 中学校数学の結果概要】

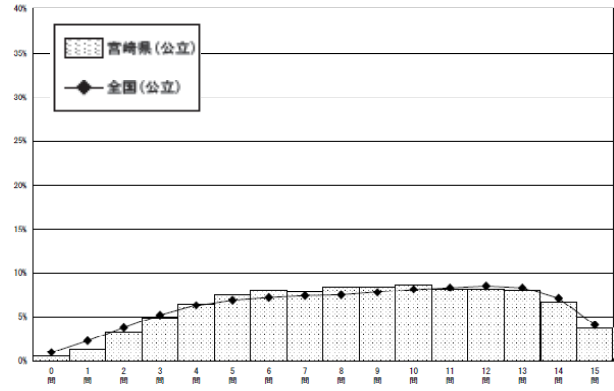
学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

中学校数学A（33問）



中学校数学B（15問）



※ 棒グラフが宮崎県の平均分布状況、折れ線グラフが全国の分布状況 横軸：正答数、縦軸：児童の割合

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの公立中学校の平均正答率

※ 太字が宮崎県の平均正答率、( )の中は、全国の平均正答率、下段は全国平均との差

領域	数学A	数学B
数と式	<b>70.2</b> (67.3) +2.9	<b>62.1</b> (61.4) +0.7
図形	<b>65.3</b> (64.6) +0.7	<b>56.5</b> (57.5) -1.0
数量関係	<b>58.9</b> (56.2) +2.7	<b>55.5</b> (54.1) +1.4

問題形式	数学A	数学B
選択式	<b>61.5</b> (60.5) +1.0	<b>61.6</b> (61.6) 0.0
短答式	<b>69.9</b> (66.1) +3.8	<b>71.7</b> (70.3) +1.4
記述式		<b>40.3</b> (40.6) -0.3

◆ 中学校数学の結果概要（全国平均との比較）

【数と式】

- (A) 指数の計算の仕方について、全国平均よりよく理解している。
- (A) 等式を目的に応じて変形することや、一元一次方程式や連立二元一次方程式を解くことは、全国平均よりよくできている。
- (A) 具体的な場面で表現された文字式の意味をよみとることに課題がある。

【図形】

- (A) 直角三角形をその一辺を軸として回転させたときにできる図形の構成について全国平均よりよく理解している。
- (A) 証明の意義の理解について課題がある。
- (B) 方針にもとづいて証明することや、証明を振り返って考えること、別の証明の方針を立てることに課題がある。

【数量関係】

- (A) 事象の起こる確率を求めることや、反比例の表からxとyの関係を式で表すことは、全国平均よりよくできている。
- (B) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することは、全国平均より若干高いが、正答率が低く課題がある。

- (A) (B) 無解答率が全問題を通じて全国平均より少ない。
- (B) 記述式の問題の正答率が、全国平均と比べやや低い傾向が見られる。

※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの



## 宮崎県の調査結果

【6 地域別結果の概要】

学校政策課

下の表は、平成21年度全国学力・学習状況調査の結果について、宮崎県内7つの教育事務所を単位として、各地域における平均正答率を表したものである。

## ◆ 小学校第6学年の地域別平均正答率

教科・地域	宮崎	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	宮崎県
国語A	74.0	69.4	70.1	70.6	70.3	70.6	75.2	71.8
国語B	51.7	48.3	47.7	48.0	47.1	47.6	52.3	49.2
算数A	81.5	78.3	78.4	78.1	77.7	79.7	81.5	79.8
算数B	53.6	48.8	49.7	48.9	47.5	50.4	52.3	51.1
平均	65.2	61.2	61.5	61.4	60.7	62.1	65.4	63.0

## ◆ 中学校第3学年の地域別平均正答率

教科・地域	宮崎	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	宮崎県
国語A	79.3	76.0	78.4	76.6	77.8	75.5	80.3	78.0
国語B	79.1	76.0	77.4	75.4	77.1	74.0	77.4	77.2
数学A	68.2	61.6	64.0	62.8	63.9	60.6	63.0	64.8
数学B	60.3	53.6	56.3	55.8	56.4	52.9	58.6	57.2
平均	71.7	66.8	69.0	67.6	68.8	65.7	69.8	69.3

○ 全教科の平均正答率は、小学校では63.0ポイント、中学校では69.3ポイントであり、教育事務所間の差をみると、最も高い地域と最も低い地域の差は、小学校では4.7ポイント、中学校では6.0ポイントである。

○ 小学校で最も差が大きいのは算数Bで、その差は6.1ポイントである。中学校で最も差が大きいのは数学Aで、7.6ポイントである。逆に、その差が最も小さいのは、小学校は算数Aで3.8ポイント、中学校は国語Aで4.8ポイントである。

◆ 宮崎県の児童生徒質問紙調査から（公立）

- ・ 質問事項は全調査項目（77問）で構成されている。ここでは、本県が平成19年度に作成した「こんな子どもは学力が伸びている！学力向上10のポイント」（資料参照）と関連する調査項目について取り上げる。
- ・ ①～⑥の番号は、「学力向上10のポイント」の番号を示し、①～④は、小・中学校共通項目である。
- ・ 数値は、本県の児童生徒で、各項目について肯定的に回答した者（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した者）の割合を合計したものである。

※（ ）内は全国の値を表している。

番号	内 容	年度	小学校 (%)	中学校 (%)
小中 ①	もっていくものを事前に確かめている	H21	87.8 (86.5)	88.1 (83.8)
		H20	86.9 (85.3)	87.3 (83.3)
		H19	87.2 (85.2)	86.6 (83.1)
小中 ②	家で学校の宿題をする	H21	96.5 (95.5)	93.6 (83.0)
		H20	96.2 (95.2)	92.9 (81.4)
		H19	96.0 (94.7)	92.2 (80.2)
小中 ③	家で学校の復習をする	H21	79.9 (46.0)	73.1 (40.5)
		H20	78.7 (43.4)	71.3 (39.6)
		H19	74.7 (40.1)	69.2 (39.2)
小中 ④	解き方が分からないときもあきらめずにいろいろな方法を考える	H21	82.8 (76.8)	71.0 (64.8)
		H20	81.6 (76.0)	68.0 (63.6)
		H19	80.1 (74.7)	68.6 (63.0)
小 ⑤	新聞やテレビなどのニュースに関心がある	H21	69.1 (67.8)	68.8 (66.1)
		H20	66.0 (66.1)	64.6 (64.1)
		H19	65.9 (66.0)	69.1 (67.3)
中 ⑤	読書は好き	H21	76.4 (71.8)	68.6 (67.4)
		H20	76.6 (72.3)	71.0 (69.0)
		H19	75.1 (71.3)	70.2 (67.9)
小 ⑥	習った漢字を生活で使おうとしている	H21		
		H20	78.4 (75.5)	61.5 (58.5)
		H19	76.6 (73.0)	61.0 (58.1)
中 ⑥	文章問題も最後まで解答を書こうと努力する	H21		
		H20	68.4 (67.5)	69.0 (63.3)
		H19		79.2 (73.3)

◆ 児童生徒質問紙調査の結果概要（全国平均との比較）

【「学力向上10のポイント」について】

- 平成21年度にある調査項目については、小・中学校ともすべて全国平均を上回っている。
- 小・中学校とも、「もっていくものを事前に確かめる」「家で学校の宿題をする」「家で復習をする」「あきらめずにいろいろな方法を考える」について、肯定的に回答している児童生徒の割合が高く、本県の児童生徒は、全国と比べ、学習習慣について好ましい状況にあるものと考えられる。
- ニュースや読書への興味・興味をより高める取組が必要である。

【資料】

「こんな子どもは学力が伸びている！学力向上10のポイント」

この「学力向上10のポイント」は、平成19年度全国学力・学習状況調査の結果に基づいて作成したものです。（小学校用、中学校用の2種類があります。）

小学校用

① もっていくものを**事前**に確かめている子ども

② 出された**宿題**をその日のうちに終わらせる子ども

③ 授業の**復習**をよくする子ども

④ 解き方が分からないときにも**あきらめず**にいろいろな方法を考える子ども

⑤ 新聞やテレビの**ニュース**を見ている子ども

⑥ 普段よく**漢字**を使っている子ども

⑦ 普段よく**計算**をする子ども

⑧

⑨

⑩

中学校用

① 持っていくものを**事前**に確かめている子ども

② 出された**宿題**をその日のうちに終わらせる子ども

③ 授業の**復習**をよくする子ども

④ 解き方が分からないときにも**あきらめず**にいろいろな方法を考える子ども

⑤ よく**読書**をする子ども

⑥ **文章問題**も、最後まで解答を書こうと努力する子ども

⑦ 普段よく**計算**をする子ども

⑧

⑨

⑩

注：⑧～⑩には、各市町村教育委員会や各学校の実態に応じて記入し、各学校で作成されています。